

地産地消費・まちづくりを結ぶ飲食店

古賀 剛（ラーフゴーラーフ）

「ラーフゴーラーフ」は昨年4月に久留米市役所の先、ほとんど人が通らないところに（皆さんの反対もあったのですが）、店をオープンしました。現在、ぼちぼちお客さんは増えてきていますが経営自体は大変です。

「地産地消・まちづくりを結ぶ」ということは、結果的にそうになっていっているのではないか、という思いです。とにかく地元の人と触れ合ってさまざまなことを実践していく中でいろいろなアイデアが湧いてきて、そのようなものに一步步近づいていっているのではないか、と思います。

まずは、古賀剛とは何ぞや、ということについて知って頂きたいと思います。

細かいこと抜きに、まずは気持ち（ハート）が第一だと思ってやっています。気持ちがなければ相手に伝わりません。もちろん事業ですから利益は上げなくてはなりません。ただ、私はいろいろな人、生産者や従業員、関連業者さん、それから地域の人たちやその家族の人たち皆が楽しくなっていける環境をつくりたい、それができればあとから利益は上がってくるということを信じて、今は店を運営しています。もちろん、家族をはじめ周りは心配していますが、やっとな



しずつ形になってきて、スタッフをはじめ安心してきているんじゃないかな、と思います。

広告代理店に勤務したときは、システムエンジニアなどはコンピュータばかり見て仕事をして、仕事の終わる間際になると「どこに飲みに行こうか」とばかり考えている。その時間と効率を計算してデータにまとめて、私がそれを全部引き受けるから「宴会係」を作れば、皆がもっと楽しくなり効率も上がる、という提案をつくって社長のところへ持っていきました。その後、営業などをやりながら、久留米市の農業を一つの地図にまとめようと、農家の人をまわりました。初めてそこで久留米市の生産者の情熱に触れ、それが心に残りました。

その後、企画力を買われてログハウスレストランに勤務し、イベント企画もしましたが、従業員とのコミュニケーションをはかり、地元の生産物を使うメニューをものに変え、地元の人たちに来ていただくようになって、来客数や売り上げは倍増、三倍増になりました。

そこで私が気づいたのは、人の気持ちの

大切さです。「ハートが一番」。とにかく地元をまわり、地元の人たちと触れ合っていくなかでいろいろなアイデアがわいてきて、いろいろなことが可能になる。

やりたいことはたくさんあるが、リスクも伴う。そのレストランでは社長に負わせるわけにはいきません。自分でやるしかない。そこで、独立してレストランをつくりました。本当に感動できる商品を作るために、関わるすべての人のエネルギーを生かすことが基盤になっていけば、必ず利益があがってくる。モットーは“感謝と自信で元気よく”。

人や環境に感謝しながら、やりはじめたら自分を信じて、元気よくやっていく。それをたくさんのお客様や関わる人たちに伝えていけたらこんな素晴らしいことはない。筑後は野菜や果物が豊富です。生産者の方たちは一生懸命つくっておられます。ゆくゆくは、その地域に合った、気持ちや素材が生かされる店を各地につくり、食文化のさまざまなメッセージが詰まったテーマパークを作れたら、と思います。

地産地消を前進させるために、とにかく消費者に情報をいろいろな形で発信する、お互いの感謝の気持ちから生まれてきたアイデアを実践する、リスクを共有しながら無理なく継続できるようにしていく、ことを心がけたいと思います。

具体的には次のようなことをしています。

地元のこだわりの食材を使ったメニューの提案から販売へ。無農薬・有機の生産物を食べてもらい、おいしければ買ってもらう。高い、とよく怒られますが、まず買ってもらっています。

繰り返し食べてもらうようにする。とにかく安く、あきないように日替わりにし

て地元の人たちが食べるメニューを開発中です。

生産者、消費者がともに学び情報交換ができるようなイベント。例えば「トマト狩り」を企画して100何十人集まりました。捨てられるトマトが生き、いろんな人に感動を与えることができます。

生産者が食材を持参し、料理し、提供する。きのこの生産者が新しいきのこを採ってきて、料理し、出す、という取り組みをしています。

主婦の情報網を生かす。30席しかない店にスタッフ30名募集しています。1日5人ずつ、6週テーマをもって日替わりランチをつくってもらっています。この人たちが友人に呼びかけ、ねずみ算式にネットワークを広げています。新しい食材の食べ方の提案、地元のイベントでの野菜販売、料理教室なども積極的にやっている。人の通らないところに店を構えたのも、ゼロからネットワークをつくっていきかけたから。

情報誌、マスメディアに取り上げられるようなアイデア企画の提案。久留米の全世帯に無料配付されているミニコミ誌の毎号2ページをお借りして、情報を交換しています。ちなみに来月号では皆さんの「夢」を募集しています。

この集会で、たくさんの人たちの気持ちを感じさせて頂きました。いろいろな人と触れ合う中で、結果として協同は生まれてくるのではないのでしょうか。